

【議事】

「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」について

(1) 基本方針を策定する目的，背景並びにスケジュール

(1) 基本方針を策定する目的, 背景並びにスケジュール

本方針が目指すもの

不登校を始めとした今日的な教育課題や児童生徒数の減少見込み等を踏まえ、将来における「新しい学校のあり方」を幅広い視点で検討し、『より良い教育環境の確保』と『教育の質の向上』を図る

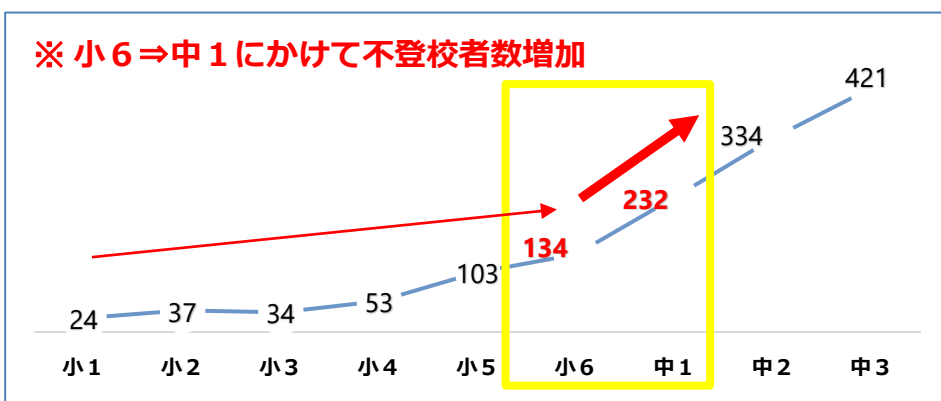
誰一人取り残さず、多様な個人の「ウェルビーイングの実現」を目指す

基本方針を策定する「背景」

学校現場には多種多様な教育課題があります

- ◆ 不登校児童生徒数が著しく増加 ※8年間で約3.8倍
(H26年216人⇒R4年805人)
- ◆ 増加著しい特別支援学級児童生徒への対応 ※8年間で約2倍
(H26年508人⇒R4年1,056人)

◆ 「中1ギャップ」, 「小1プロブレム」

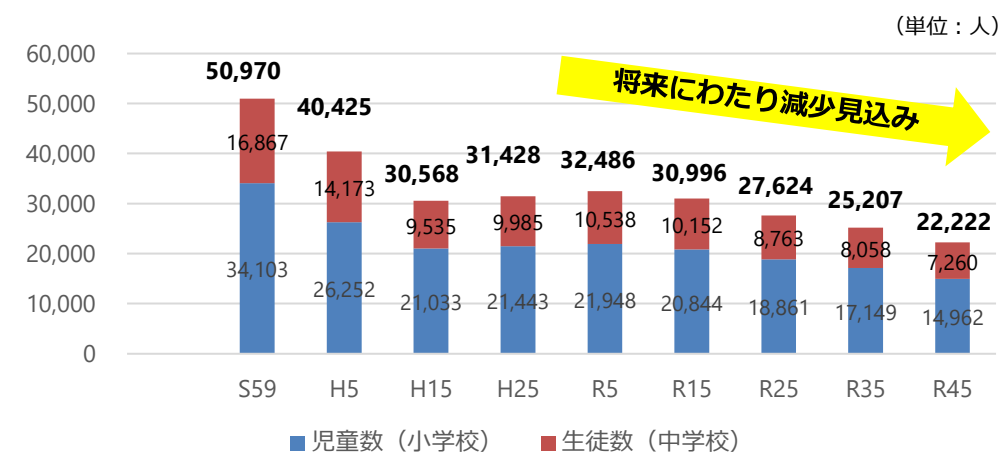


【参考】 H26入学児童の年次別不登校数 (柏市)

- ◆ 教職員の不足, 多忙感の増大, 若年化による組織力の低下
- ◆ 学校が求められる役割が多様化・複雑化
(貧困世帯ケア, 生徒指導, 通学路の安全確保など)
- ◆ 「学びなおし」機会が不十分
- ◆ 社会の担い手として必要となる基礎的学力・資質の習得
- ◆ 私学志向化を踏まえた市立高校の今後のあり方

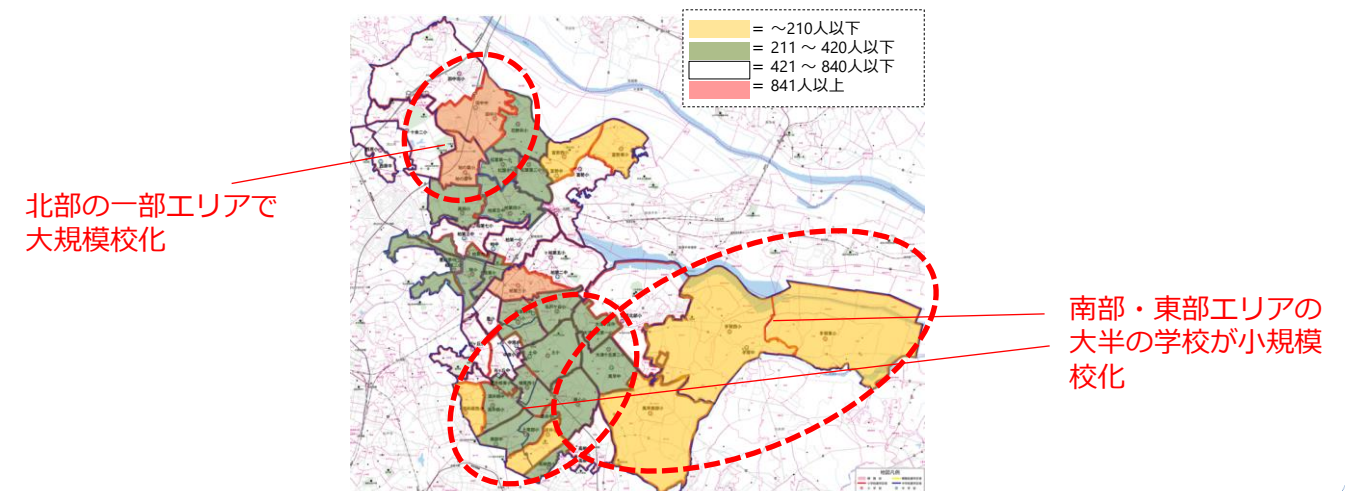
■ 児童生徒数の減少 (過大規模校や小規模校が混在)

- ◆ 少子高齢化の影響で、将来的には児童数・生徒数が大幅に減少する見込み
※ 10年後に▲5%, 20年後に▲15%, 30年後に▲22%減少



◆ 地域による学校規模の格差が拡大

- ⇒ 全校児童生徒数が300人を下回る小規模な学校が大幅に増加
- ⇒ 鉄道駅周辺, 大規模住宅開発エリアの学校は大規模校化が進行



【参考】 30年後の小学校規模シミュレーション

(1) 基本方針を策定する目的, 背景並びにスケジュール

検討体制・策定までのスケジュール

- ◆ 検討課題が多岐に渡ることを踏まえ, 教育委員会検討会 (3つの部会を含む) で協議・検討
- ◆ それら検討経過を踏まえ, 教育政策審議会で検討を深める

柏市教育政策審議会

検討状況を逐次, 報告

【教育委員会】検討会

回	時期	協議事項
第1回	令和5年11月22日	現状把握 ● 諮問 (基本方針の策定について) ● 学校を取り巻く現状の概要・課題の全体感を共有 ・児童生徒数及び学校規模の推移見込み ・各種教育上の課題 (不登校, 教員不足, 特別支援等) ● 策定までの審議会スケジュール
第2回	令和6年1月下旬	課題の整理 ※ 第1回審議会に続き, 「現状」「課題」を整理 ● 学校施設の老朽化状況, 将来にわたる維持管理コスト ● 通学上の安全 (遠距離通学の状況を含む) ● 一貫教育の導入に関する審議 ● 先進市視察状況を報告 ● アンケート調査項目を提示
第3回	令和6年3月下旬	対応の方向性 ● 各課題ごとの対応の方向性について審議 ・学校を取り巻く状況を各地域別に整理 ・基準案 (適正規模, 配置, 通学距離) ・各種教育課題に対する対応の方向性について審議 ● アンケート調査結果報告
第4回	令和6年5月中旬	対応の方向性 ● 基準案について審議 ● 対応の優先順位について審議 ● (引き続き) 教育課題に対する対応の方向性について審議
第5回	令和6年7月中旬	対応の方向性 (引き続き) ● 基準案の設定 ● 対応の優先順位について審議 ● (引き続き) 教育課題に対する対応の方向性について審議 または, 「先進校視察」としてマイクロバスで先進市の視察を検討
第6回	令和6年9月下旬	基本方針 基本方針《第1案》について審議, 他計画との整合協議
第7回	令和6年11月中旬	基本方針 基本方針《第2案》について審議, 他計画との整合協議
第8回	令和6年12月下旬	基本方針 基本方針案 確定 パブリックコメント実施 (R6.12/下旬~R7.1/下旬)
第9回	令和7年2月中旬	基本方針 (パブリックコメント反映) ⇒ 答申

構成メンバー: 学校教育部・教育総務部の全所属

スケジュール: 2~3カ月毎に開催

検討会の下部組織として「3つの部会」を設置

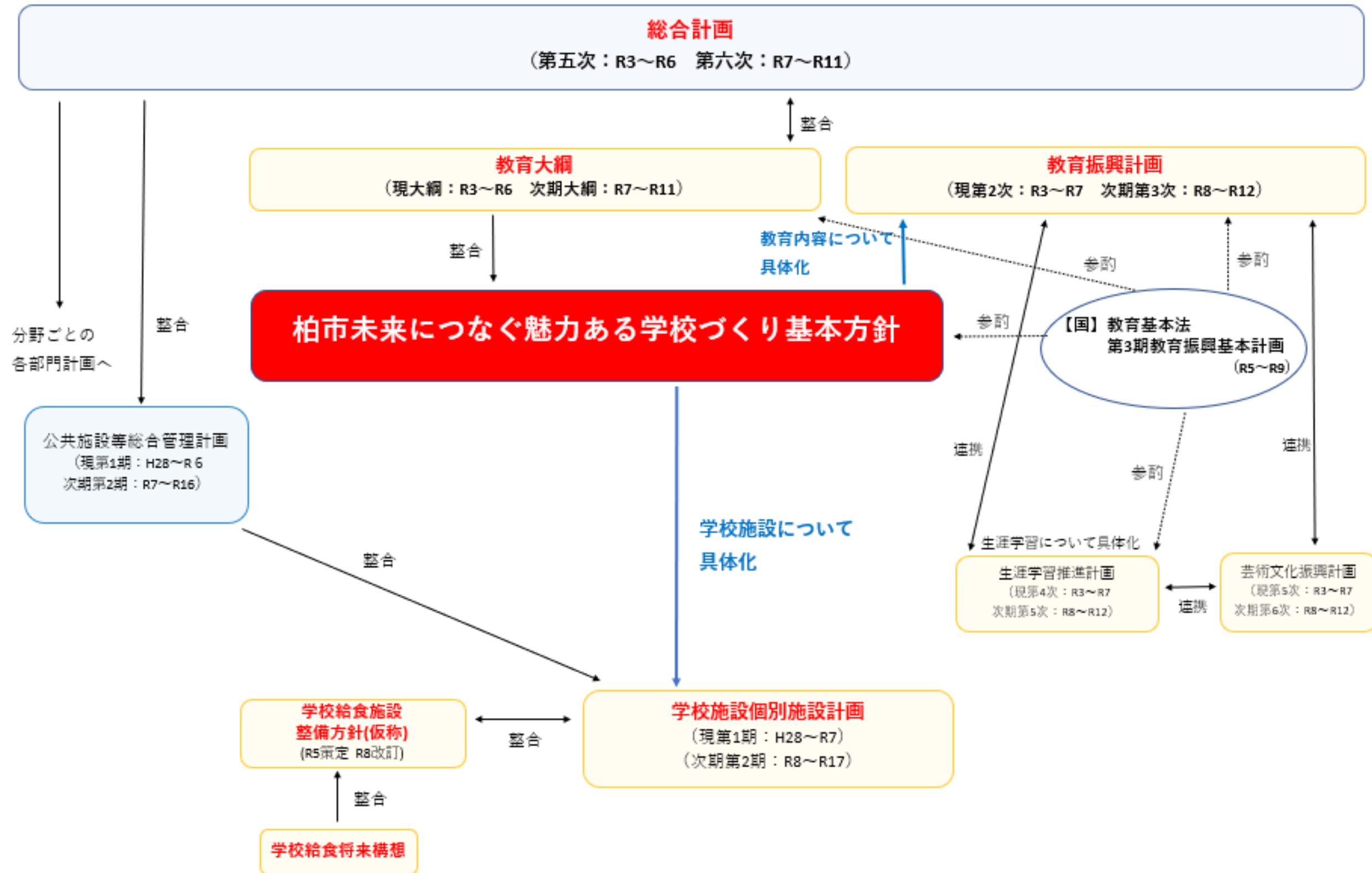
- ① 施設・給食部会
- ② 教育課程部会 ※ 1~2週間毎に実施
- ③ 学校運営部会

市長部局関係部署とも情報共有

令和7年3月末に基本方針を策定

(1) 基本方針を策定する目的、背景並びにスケジュール

他の計画・方針との関係性



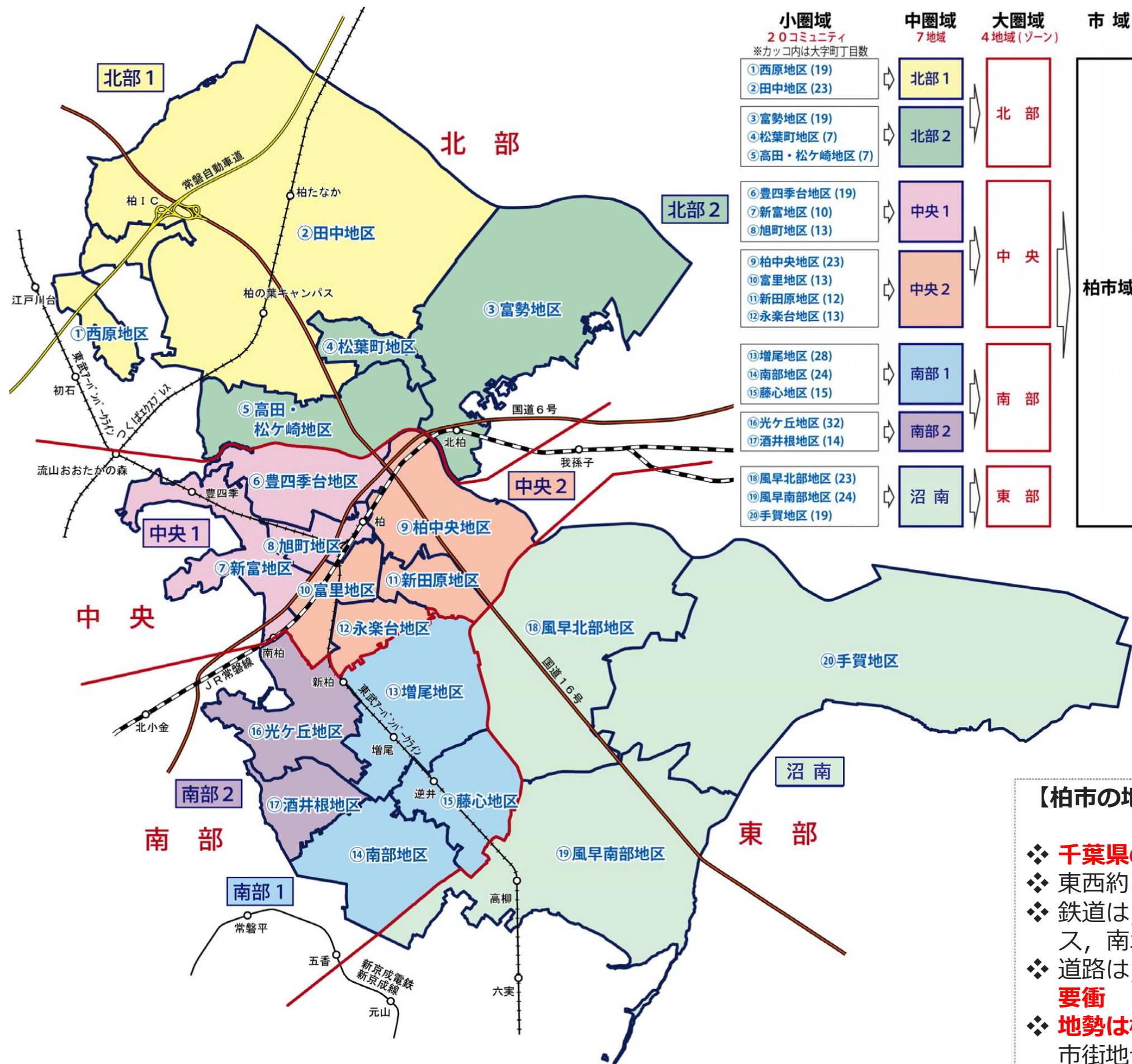
(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

ア 児童生徒数の推移

イ 学校規模の現状と今後の見込み

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

(参考) 地域状況の把握



柏市の圏域区分	
小圏域 20コミュニティ	市内に20ある「ふるさと協議会(※1)」に係るそれぞれのコミュニティ地区の区域に合わせて設定したもの。
中圏域 7地域	「高齢者いきいきプラン21」において設定された日常生活圏域(※2)の区分に合わせて設定したもの。
大圏域 4ゾーン	「柏市第五次総合計画」において定められた、施策の立案やマネジメントを地域ごとに行う際に用いる地域区分に合わせて設定したもの。

※1 ふるさと協議会

市民と行政が一体となって住み良いまちづくりを推進することを活動目的とする「ふるさと運動」の推進組織。各地域の近隣センターを拠点に、実情に応じた様々な活動を行っている。

※2 日常生活圏域

介護保険法に基づき設定された、身近な地域において適切なサービスを提供する事を目的とした圏域のこと。柏市ではおおむね30分以内にサービスが提供される範囲を定めている。

【柏市の地理概要】

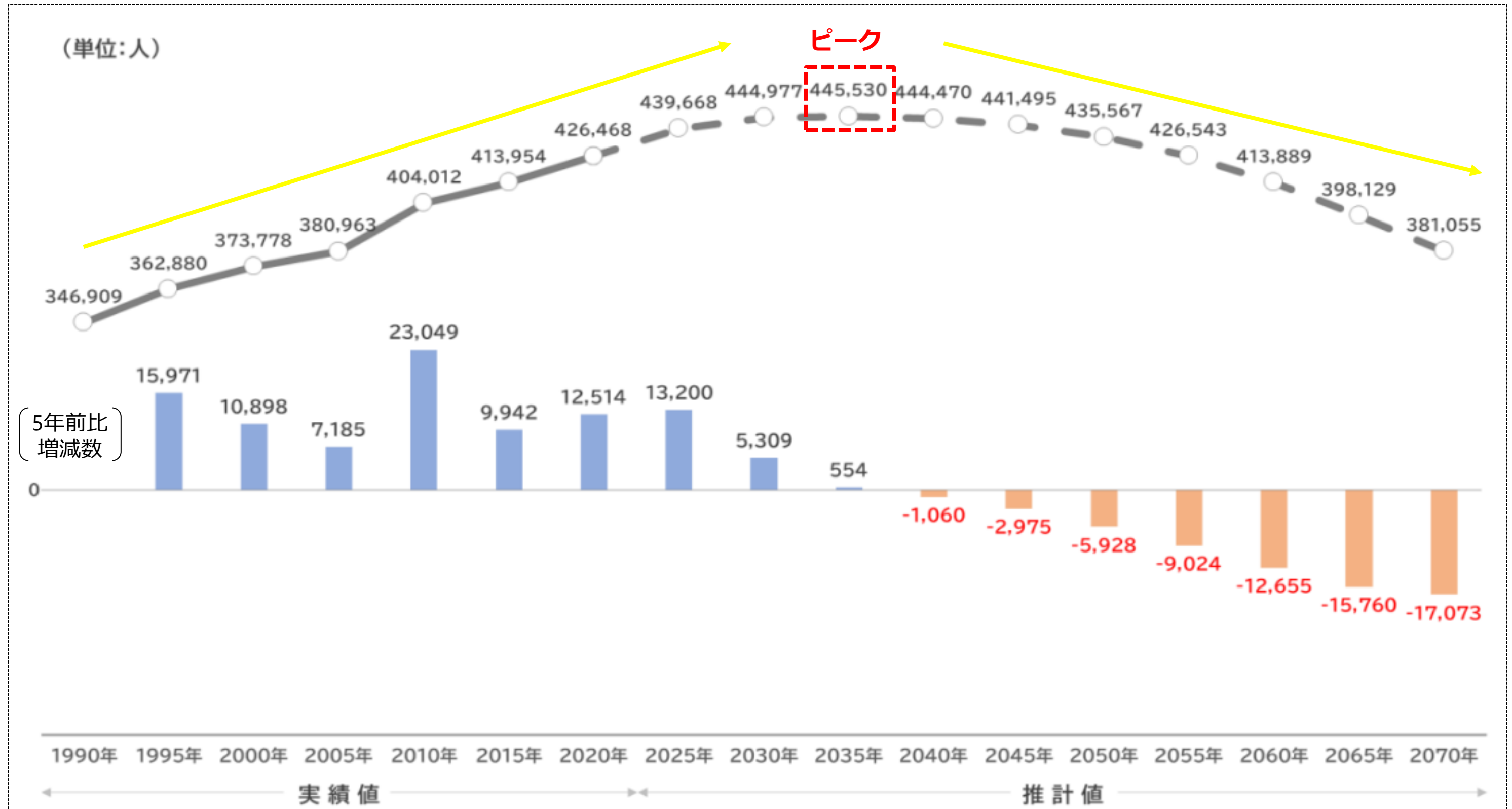
- ❖ **千葉県**の北西部に位置
- ❖ 東西約18km, 南北約15km, 面積は114.74km²
- ❖ 鉄道は, 都心から放射状に常磐線及びつくばエクスプレス, 南北に東武アーバンパークラインが通る
- ❖ 道路は, 国道6号と16号, 常磐自動車道が通り, **交通の要衝**
- ❖ **地勢は概ね平坦**で, 下総台地の広い台地上を中心に市街地や里山が形成

出典： 柏市都市計画マスタープラン (平成30年4月)

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

(参考) 柏市の人口推計 (総人口)

- ◆ 柏市の総人口は、**2035年の445,530人をピークに減少局面に入り**、2040年以降、**減少数は増加していく**
- ◆ 柏市の総人口は、**2070年(47年後)には現在よりも約12%減少(▲約54,000人)減少する**

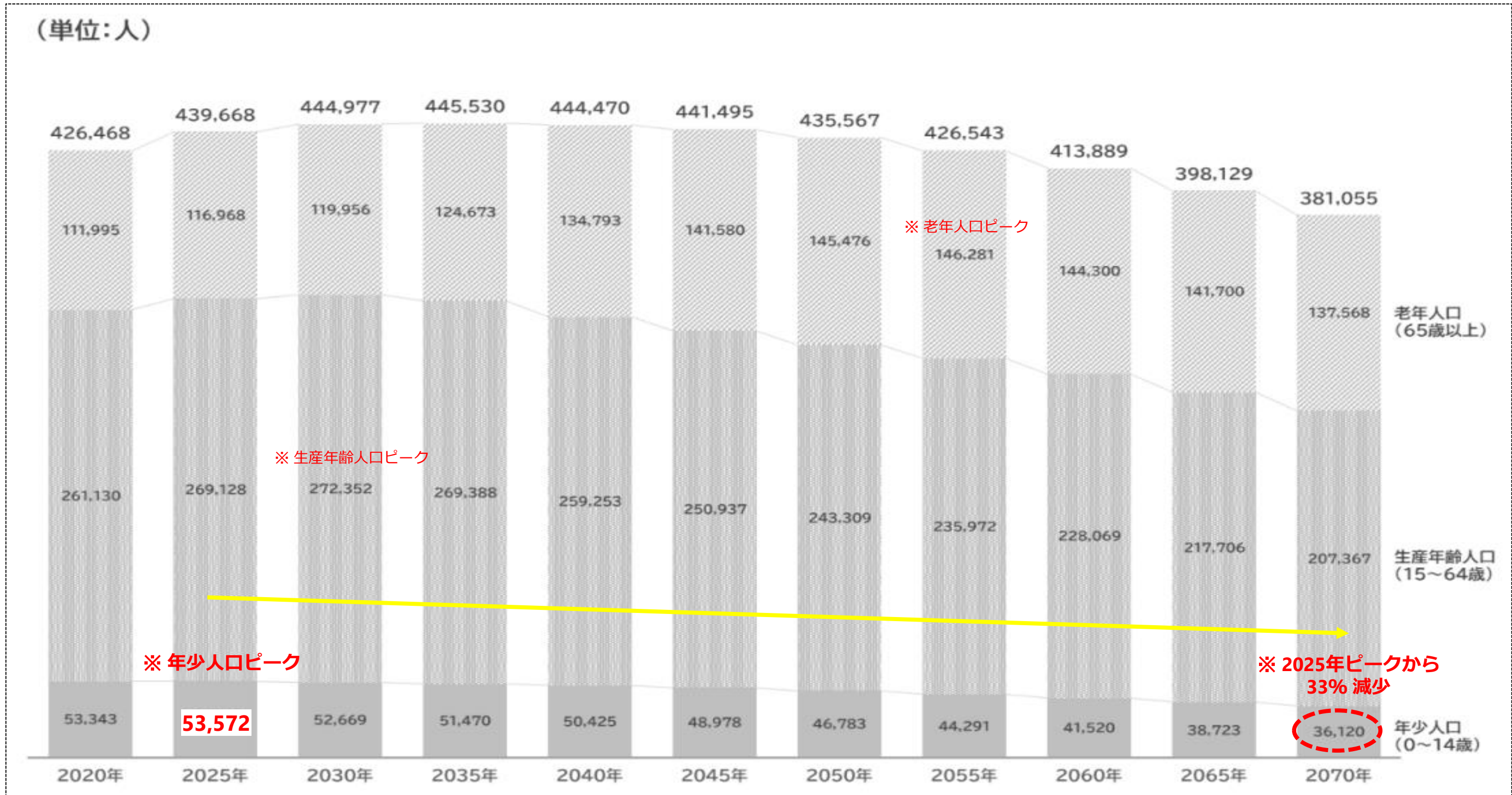


(出典: 令和5年10月 柏市の将来人口推計報告書)

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

(参考) 柏市の人口推計 (年齢3区分別)

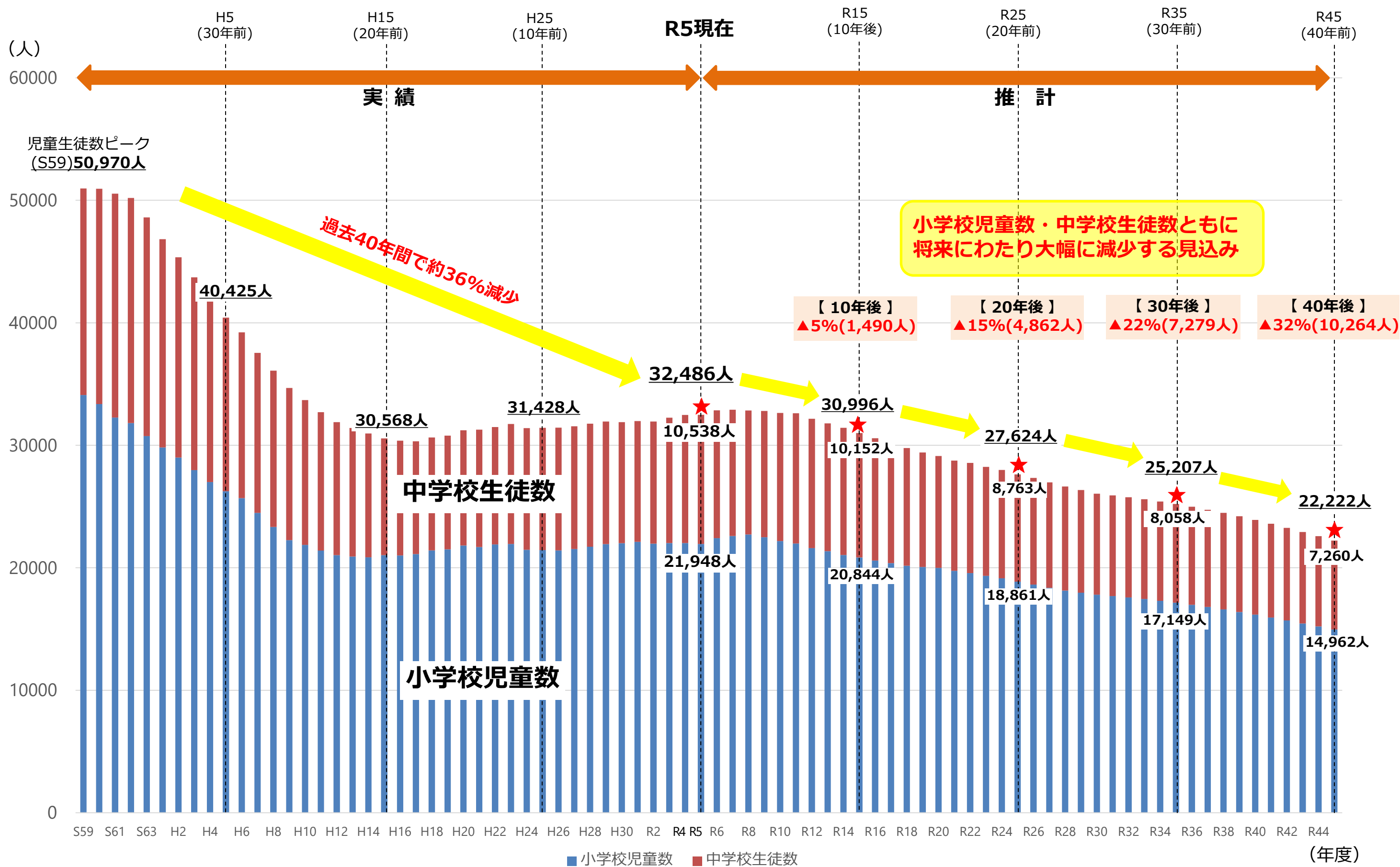
- ◆ 柏市の年少人口は、**2025年の53,572人をピークに減少局面に入り、以降、減少の一途をたどる**
- ◆ 柏市の生産年齢人口は、2030年の272,352人をピークに減少局面に入る
- ◆ 柏市の老年人口は増加を続け、2055年の146,281人でピークを迎えた後に減少に転じる



(出典: 令和5年10月 柏市の将来人口推計報告書)

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

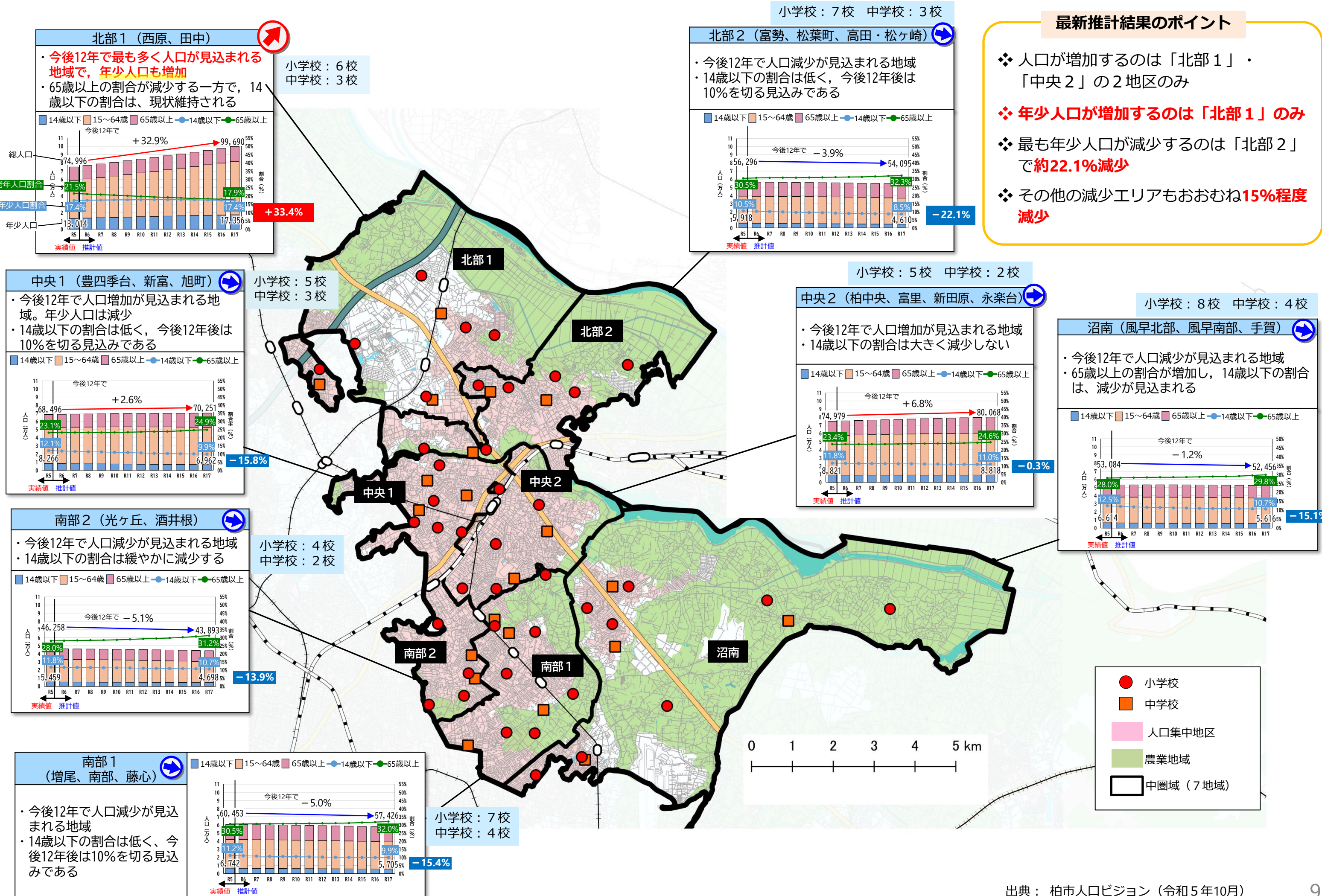
ア 児童生徒数の推移 (柏市全体の長期推計)



- ① 昭和59年度のピーク時現在までに36% (18,484人) 減少
- ② 数年間は横ばいで推移し、令和7年度に児童生徒数がピークを迎える (小学校22,593人 + 中学校10,308人 = 32,901人)
- ③ 令和8年度以降は減少に転じる
 - ⇒ 【10年後(令和15年度)】 5%減少 ⇒ 【20年後(令和25年度)】 15%減少
 - ⇒ 【30年後(令和35年度)】 22%減少 ⇒ 【40年後(令和45年度)】 32%減少

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

ア 児童生徒数の推移 (7地域区分, ~令和17年度)

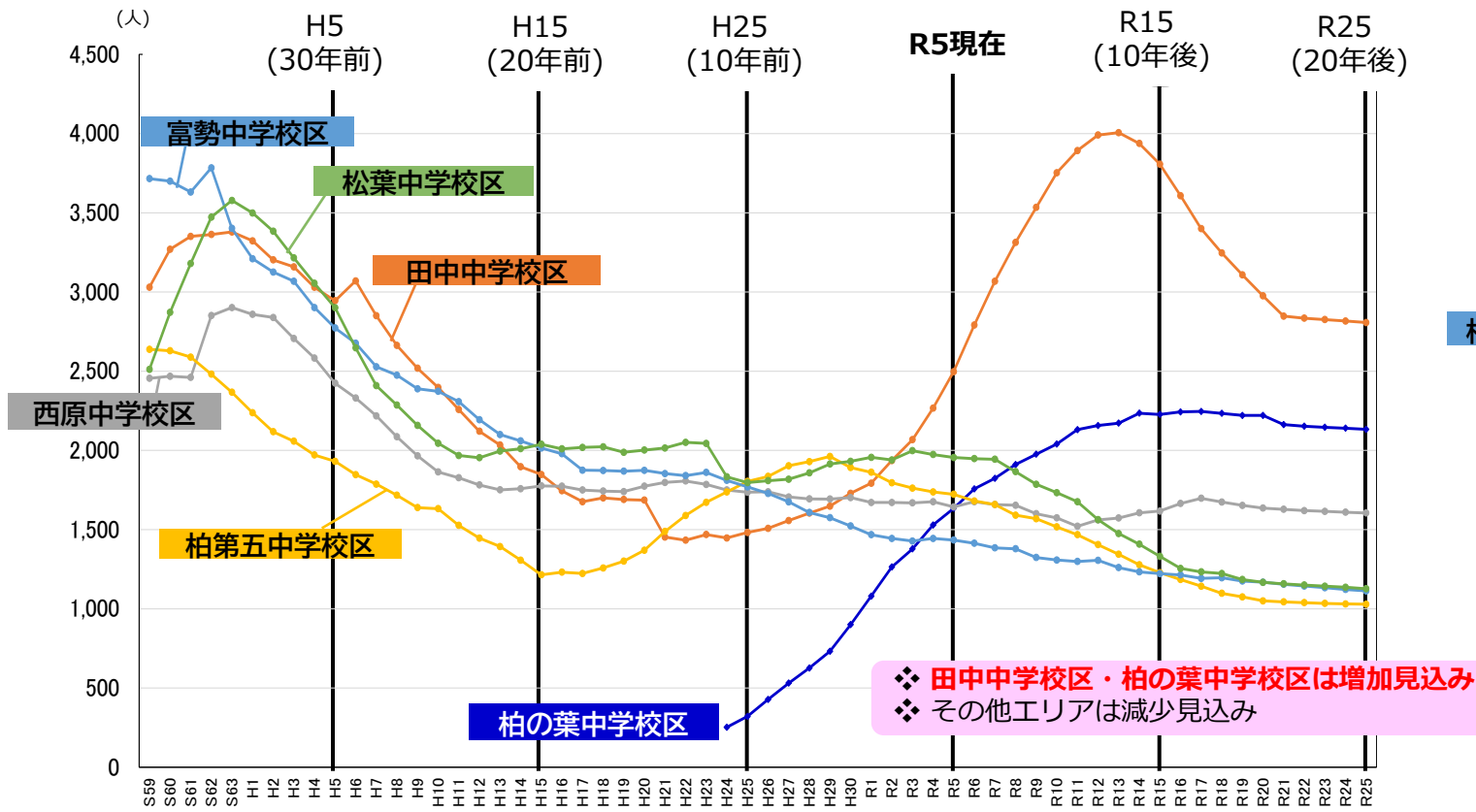


出典: 柏市人口ビジョン (令和5年10月)

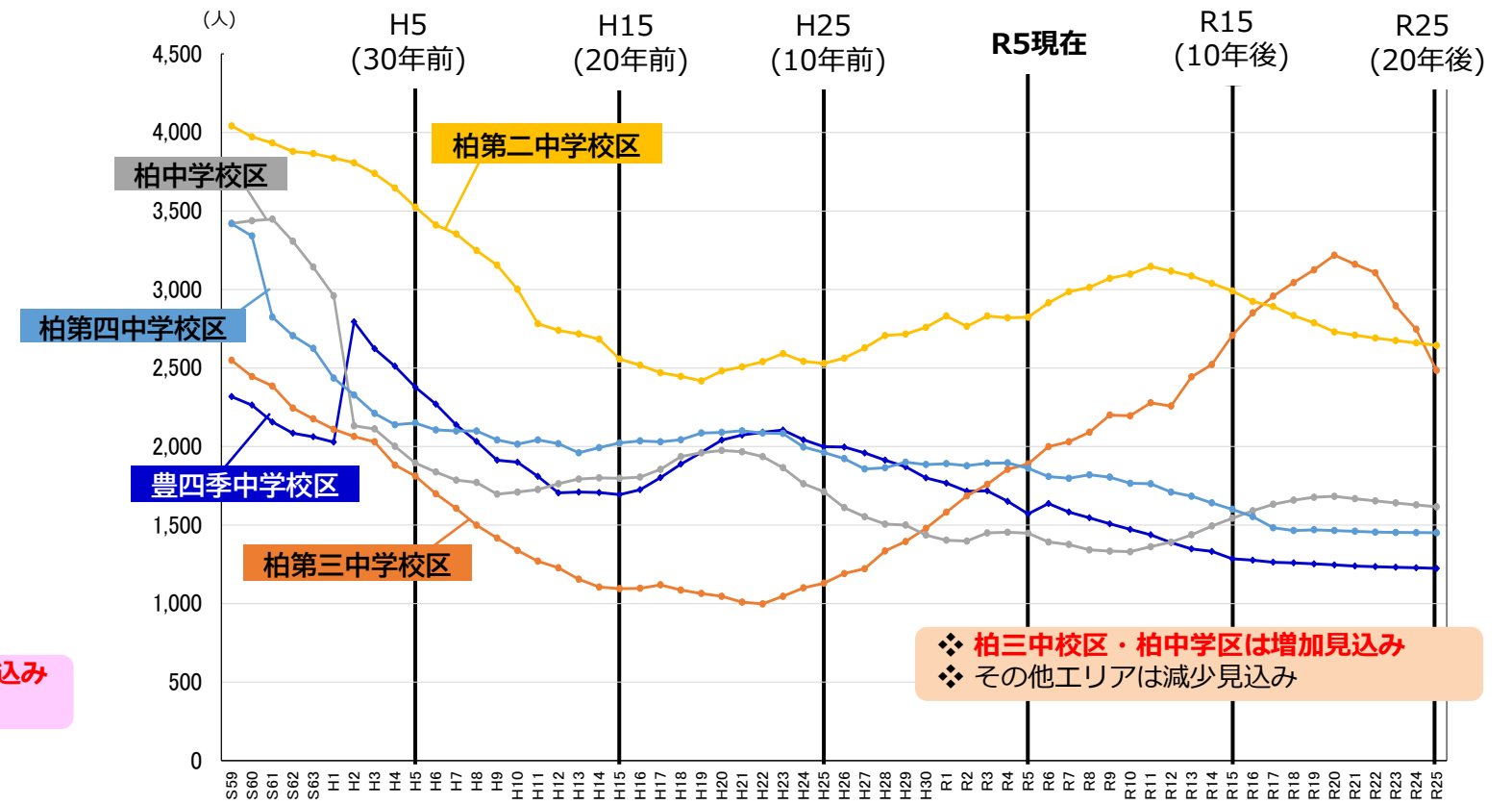
(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

ア 児童生徒数の推移（中学校区別、～令和25年度）

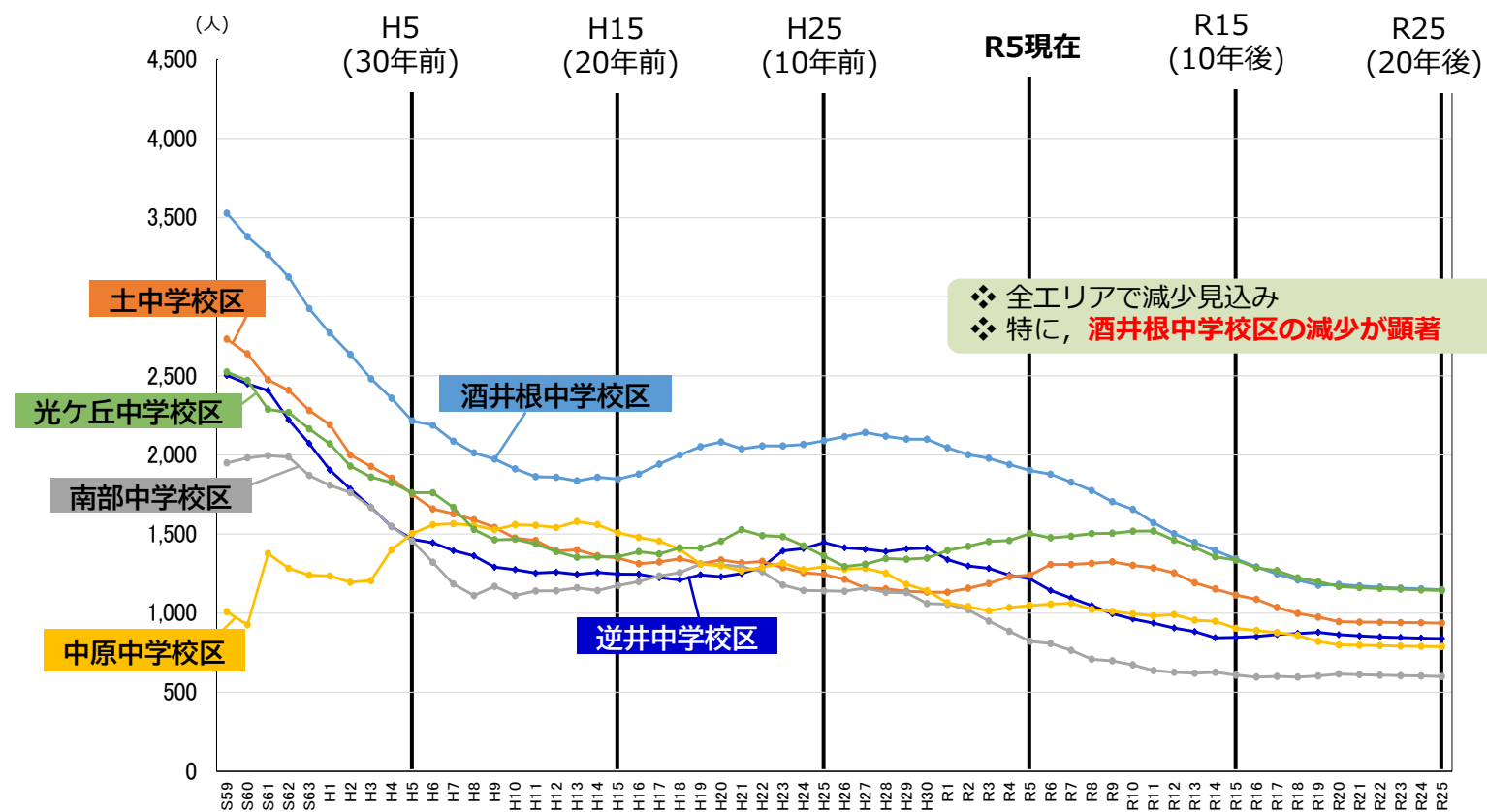
【北部1・北部2】



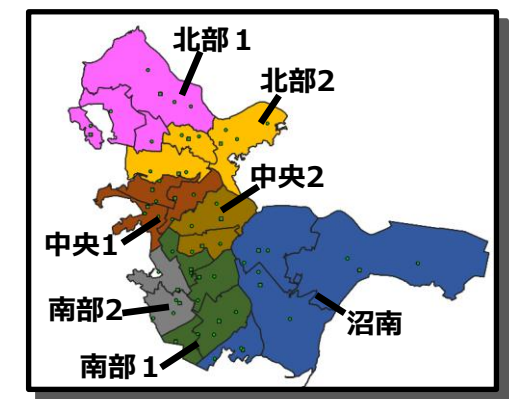
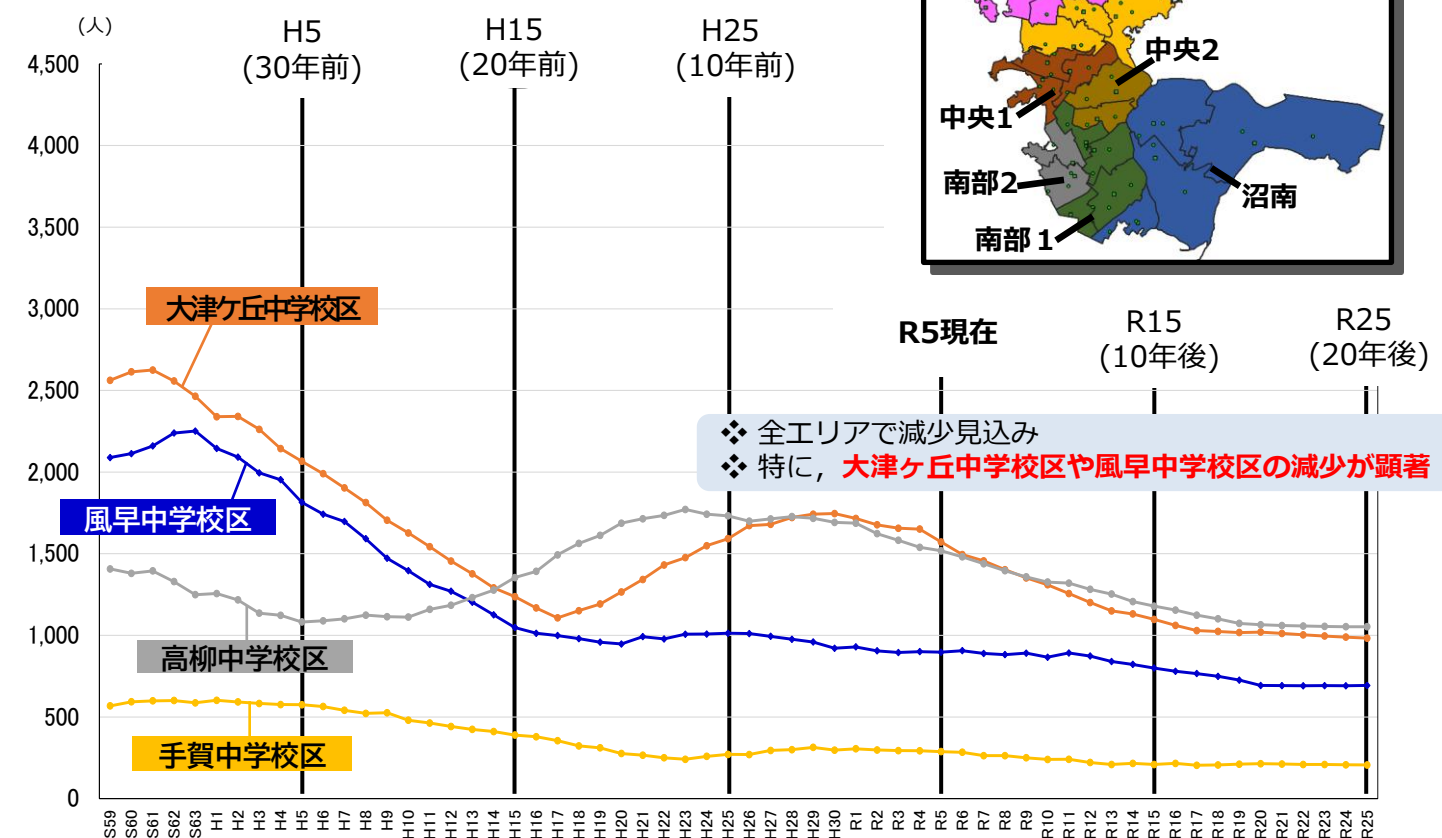
【中央1・中央2】



【南部1・南部2】



【沼南】



イ 学校規模の現状と今後の見込み

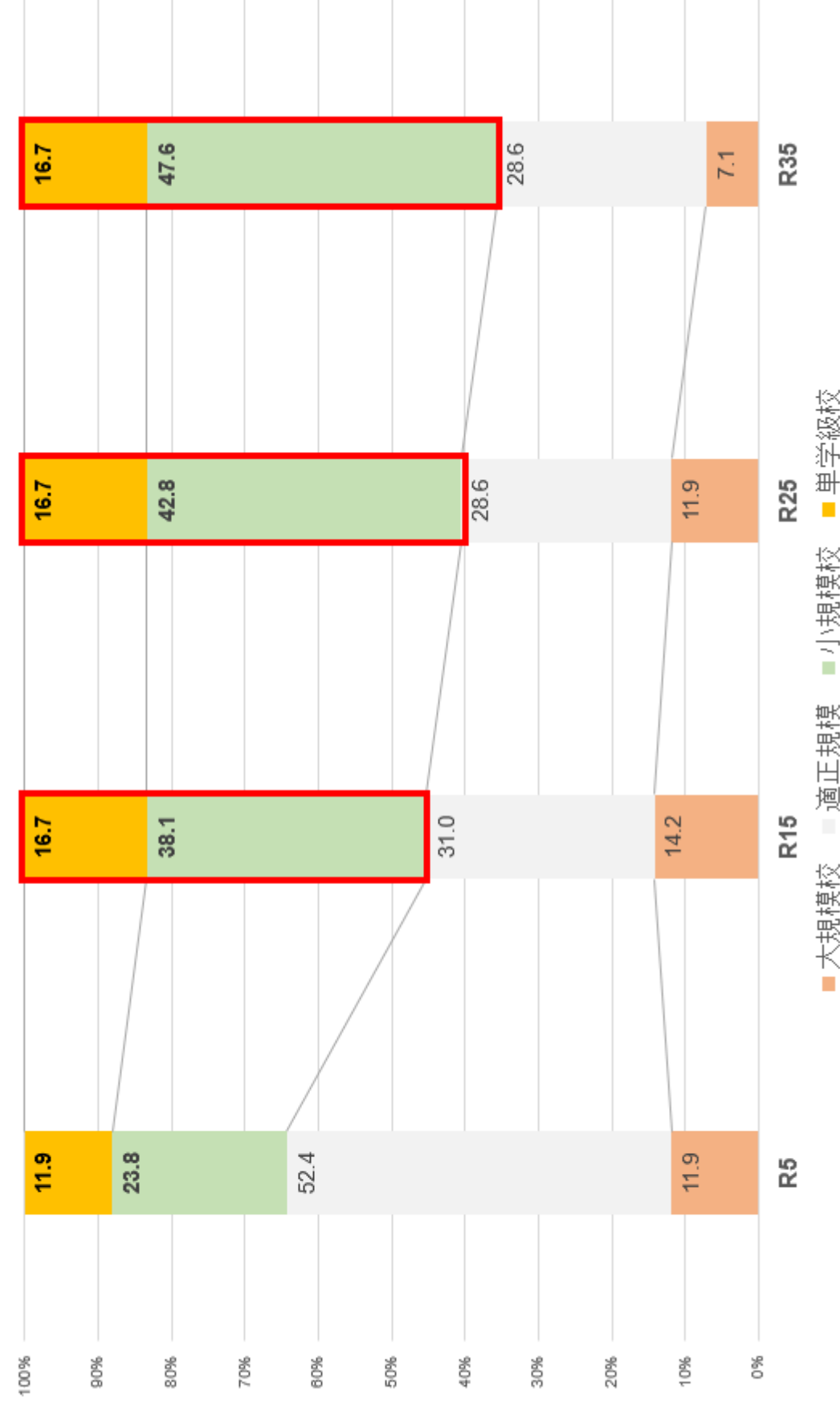
市立小学校の学校規模の予測 (R5～R35)

※ 各学校の総児童生徒数の推計に基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~210人以下
 小規模校 : 211人~420人以下
 適正規模 : 421人~840人以下
 大規模校 : 841人以上

【10年後】
 小規模校が半数を上回る

【20年後】
 さらに小規模校化が進行
 全体の6割に迫る

【30年後】
 さらに小規模校化が進行
 全体の6割を超える



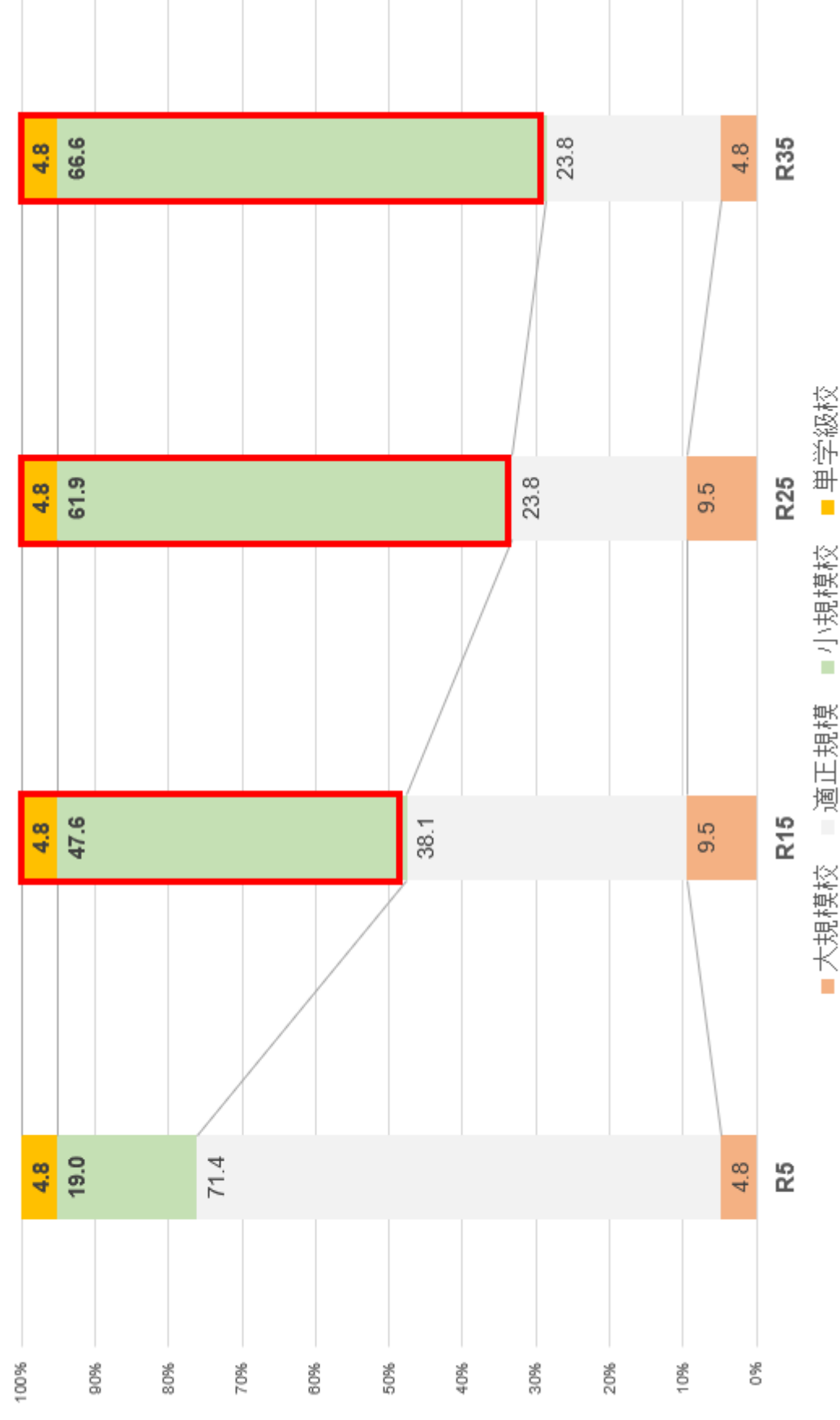
市立中学校の学校規模の予測 (R5～R35)

※ 各学校の総児童生徒数の推計に基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~105人以下
 小規模校 : 106人~420人以下
 適正規模 : 421人~840人以下
 大規模校 : 841人以上

【10年後】
 小規模校が大幅に増加
 全体の半数を上回る

【20年後】
 さらに小規模校化が進行
 全体の6割を超える

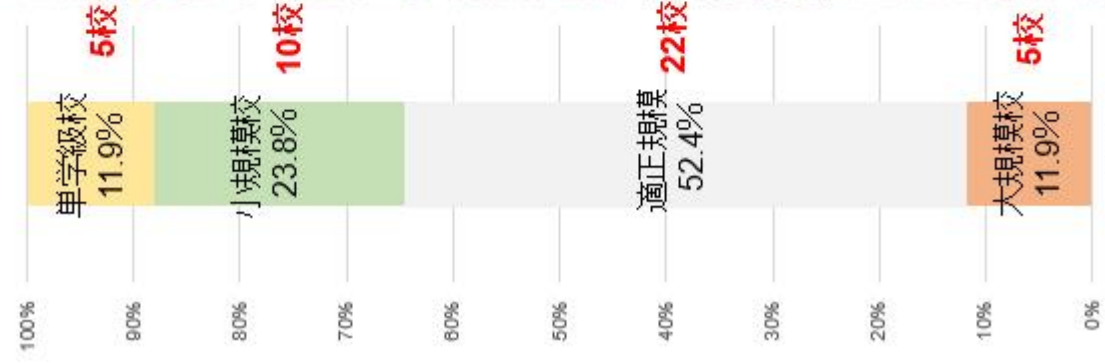
【30年後】
 さらに小規模校化が進行
 全体の7割を超える



現在（令和5年度）

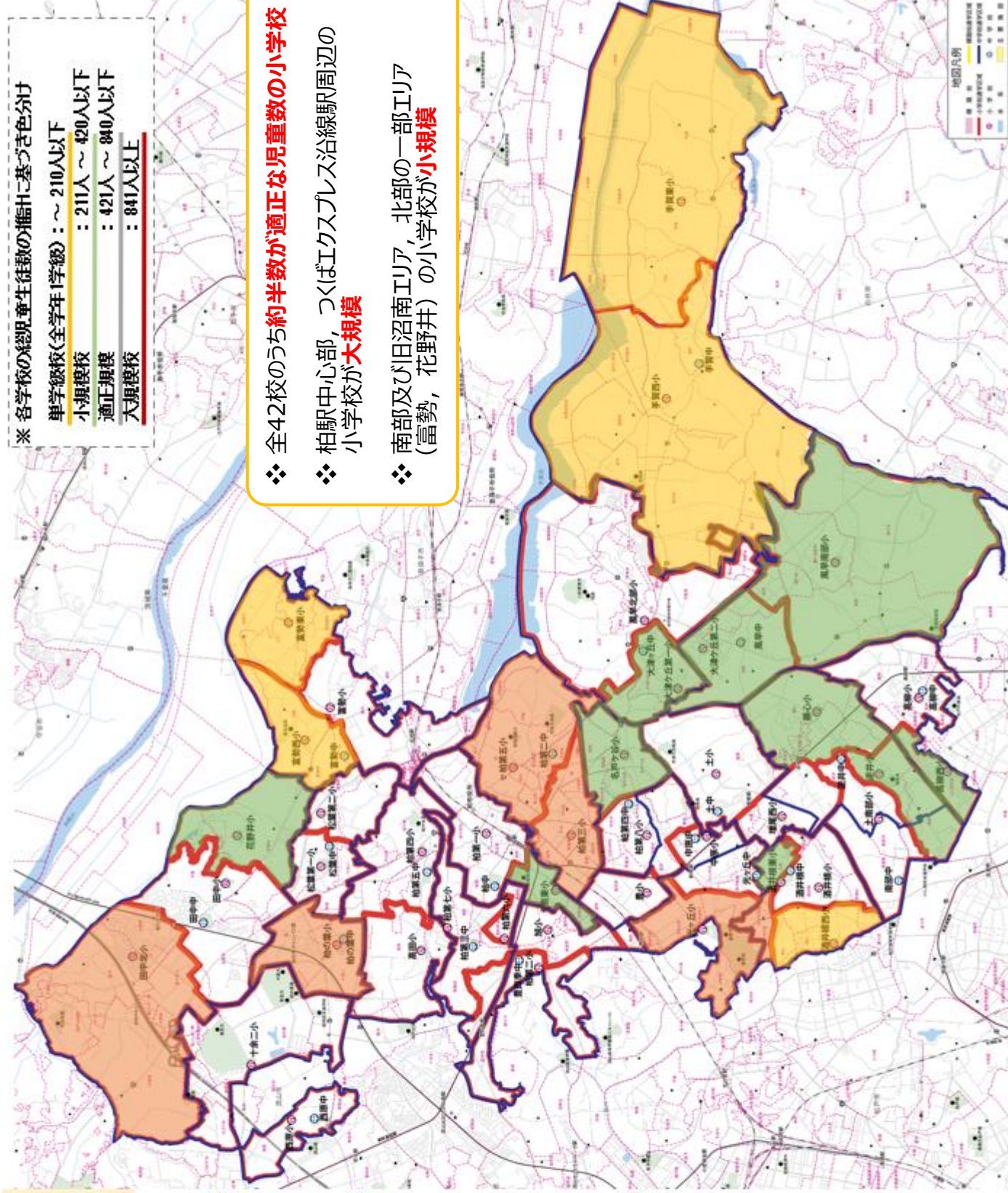
学校規模 【小学校】

R5



※ 各学校の総児童生徒数の幅Hに基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~ 210人以下
 小規模校 : 211人 ~ 420人以下
 適正規模 : 421人 ~ 840人以下
 大規模校 : 841人以上

- ❖ 全42校のうち約半数が適正な児童数の小学校
- ❖ 柏駅中心部、つくばエクスプレス沿線駅周辺の小学校が大規模
- ❖ 南部及び旧沼南エリア、北部の一部エリア(富勢, 花野井)の小学校が小規模



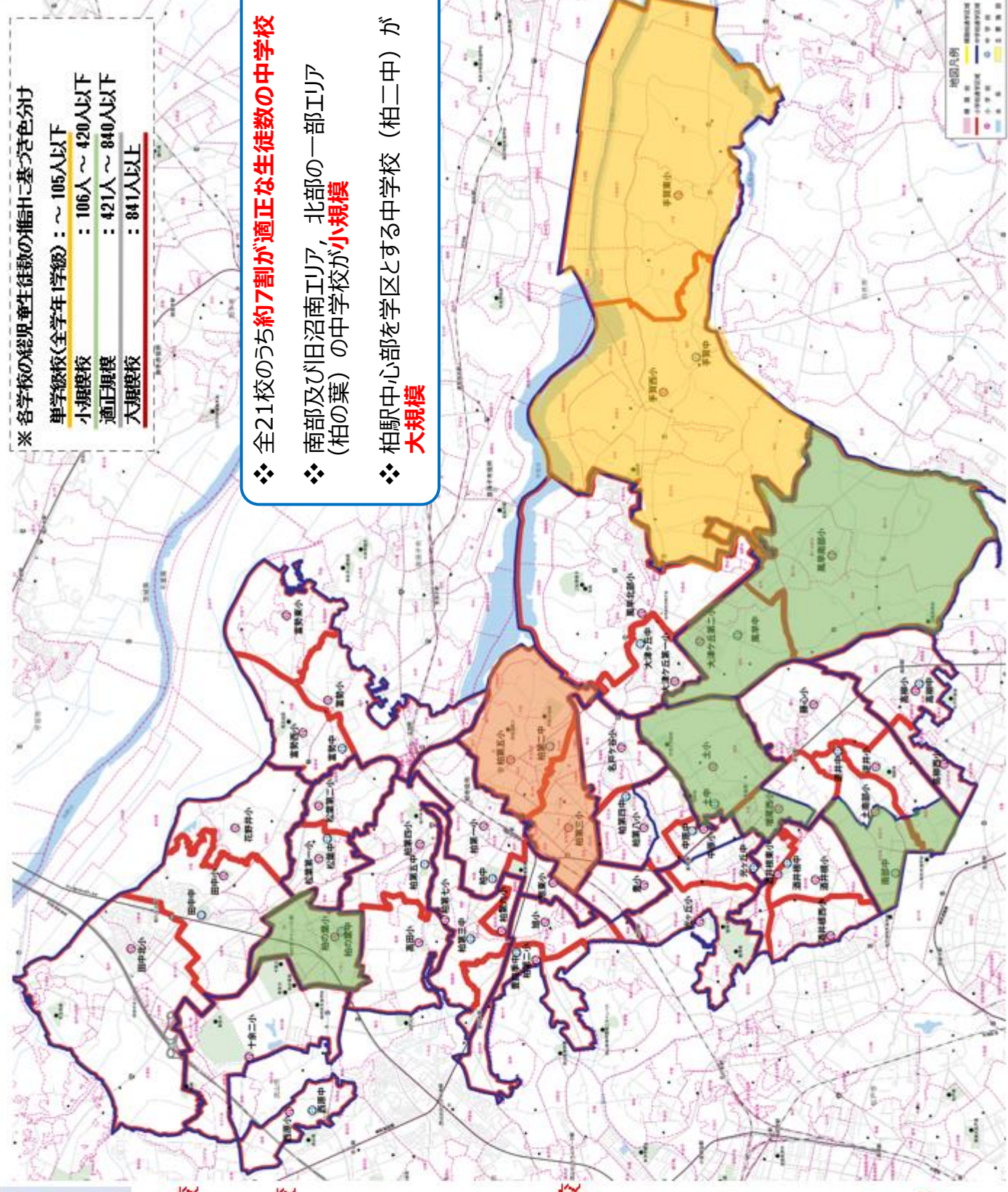
学校規模 【中学校】

→R5



※ 各学校の総児童生徒数の幅Hに基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~ 105人以下
 小規模校 : 106人 ~ 420人以下
 適正規模 : 421人 ~ 840人以下
 大規模校 : 841人以上

- ❖ 全21校のうち約7割が適正な生徒数の中学校
- ❖ 南部及び旧沼南エリア、北部の一部エリア(柏の葉)の中学校が小規模
- ❖ 柏駅中心部を学区とする中学校(柏二中)が大規模



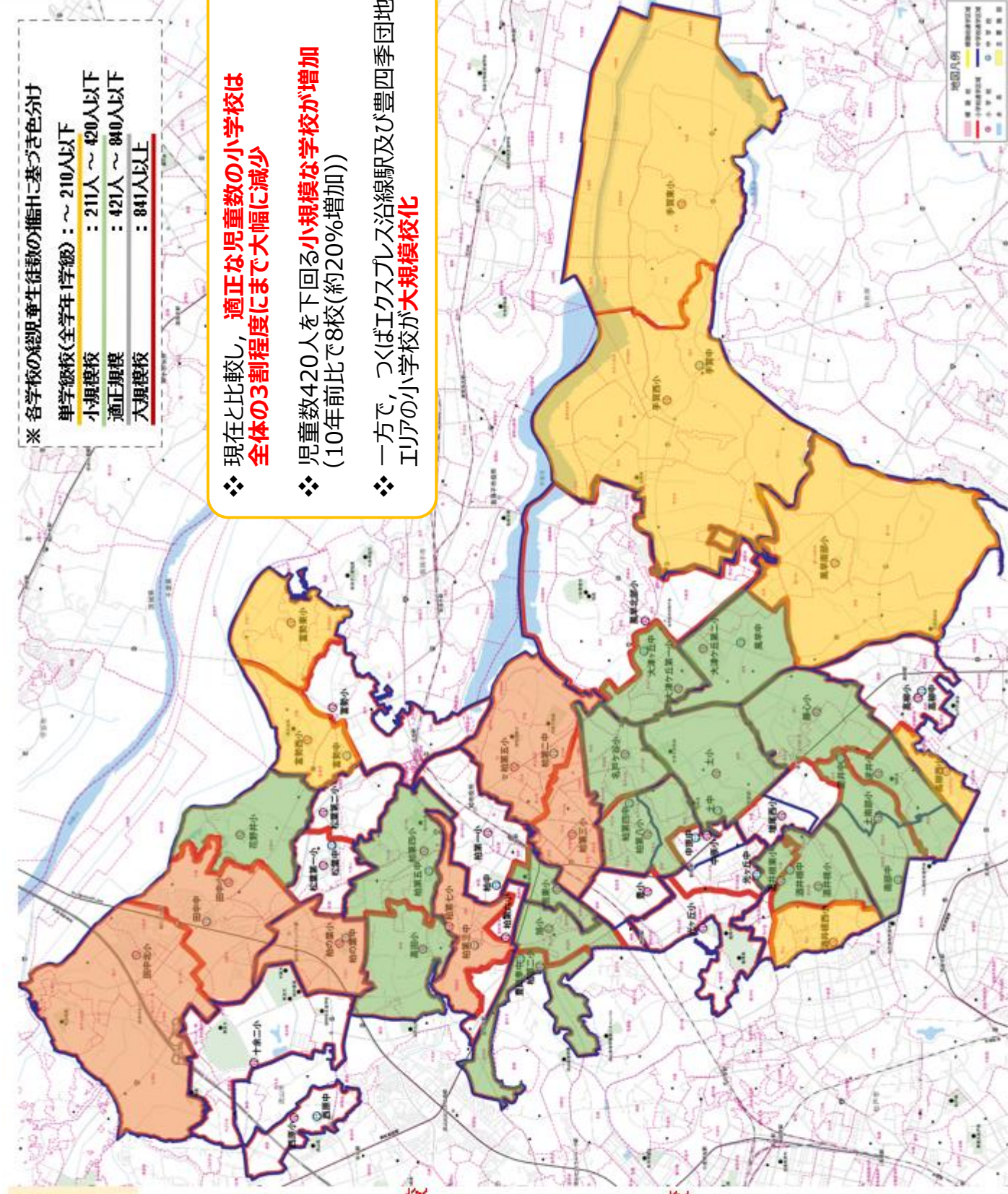
10年後（令和15年度）

学校規模予測 【小学校】 →10年後・R15

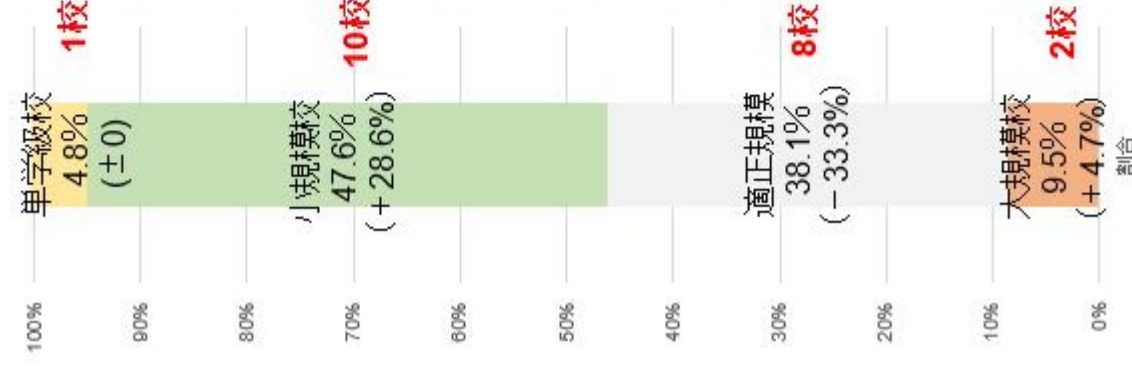


※ 各学校の総児童生徒数の幅Hに基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~210人以下
 小規模校 : 211人~420人以下
 適正規模 : 421人~840人以下
 大規模校 : 841人以上

- ❖ 現在と比較し、**適正な児童数の小学校は全体の3割程度にまで大幅に減少**
- ❖ **児童数420人を下回る小規模な学校が増加** (10年前比で8校(約20%増加))
- ❖ 一方で、つくばエクスプレス沿線駅及び四季団地エリアの小学校が**大規模校化**

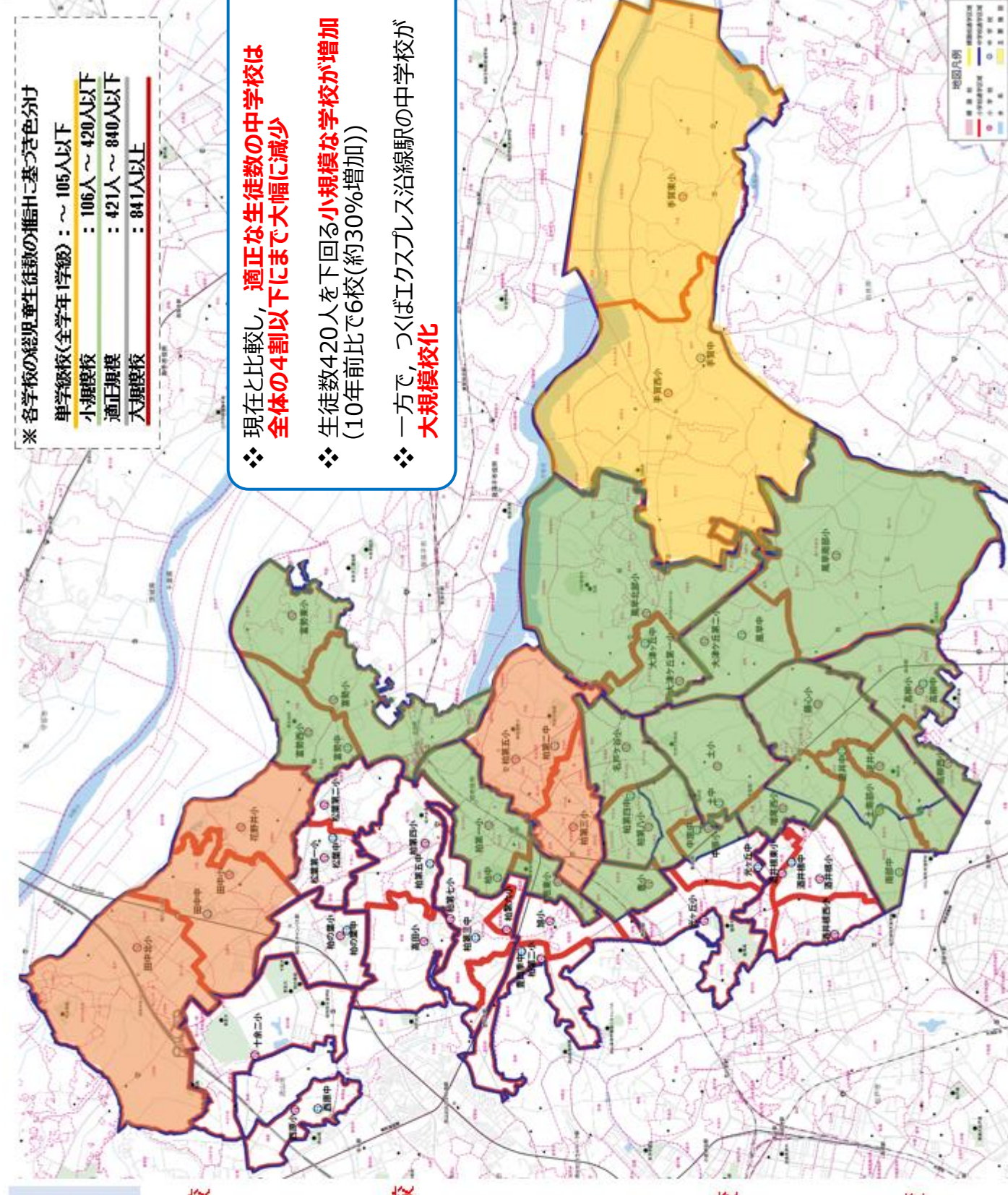


学校規模予測 【中学校】 →10年後・R15



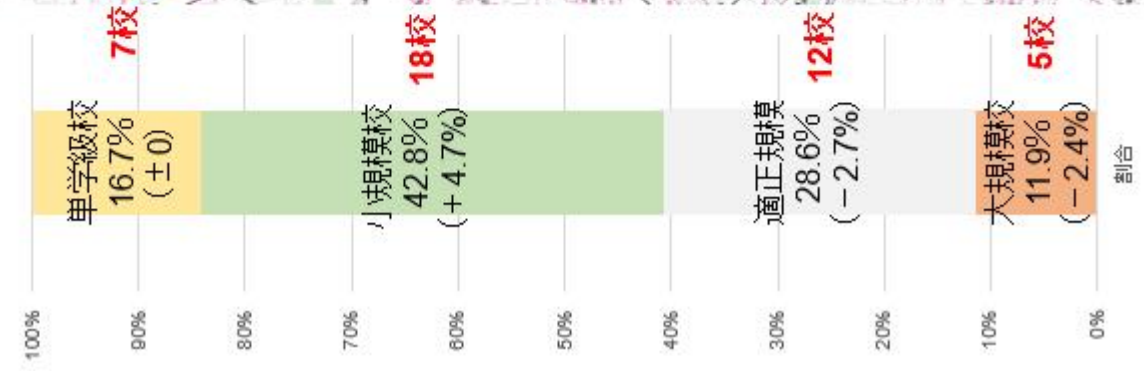
※ 各学校の総児童生徒数の幅Hに基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~105人以下
 小規模校 : 106人~420人以下
 適正規模 : 421人~840人以下
 大規模校 : 841人以上

- ❖ 現在と比較し、**適正な生徒数の中学校は全体の4割以下にまで大幅に減少**
- ❖ **生徒数420人を下回る小規模な学校が増加** (10年前比で6校(約30%増加))
- ❖ 一方で、つくばエクスプレス沿線駅の中学校が**大規模校化**



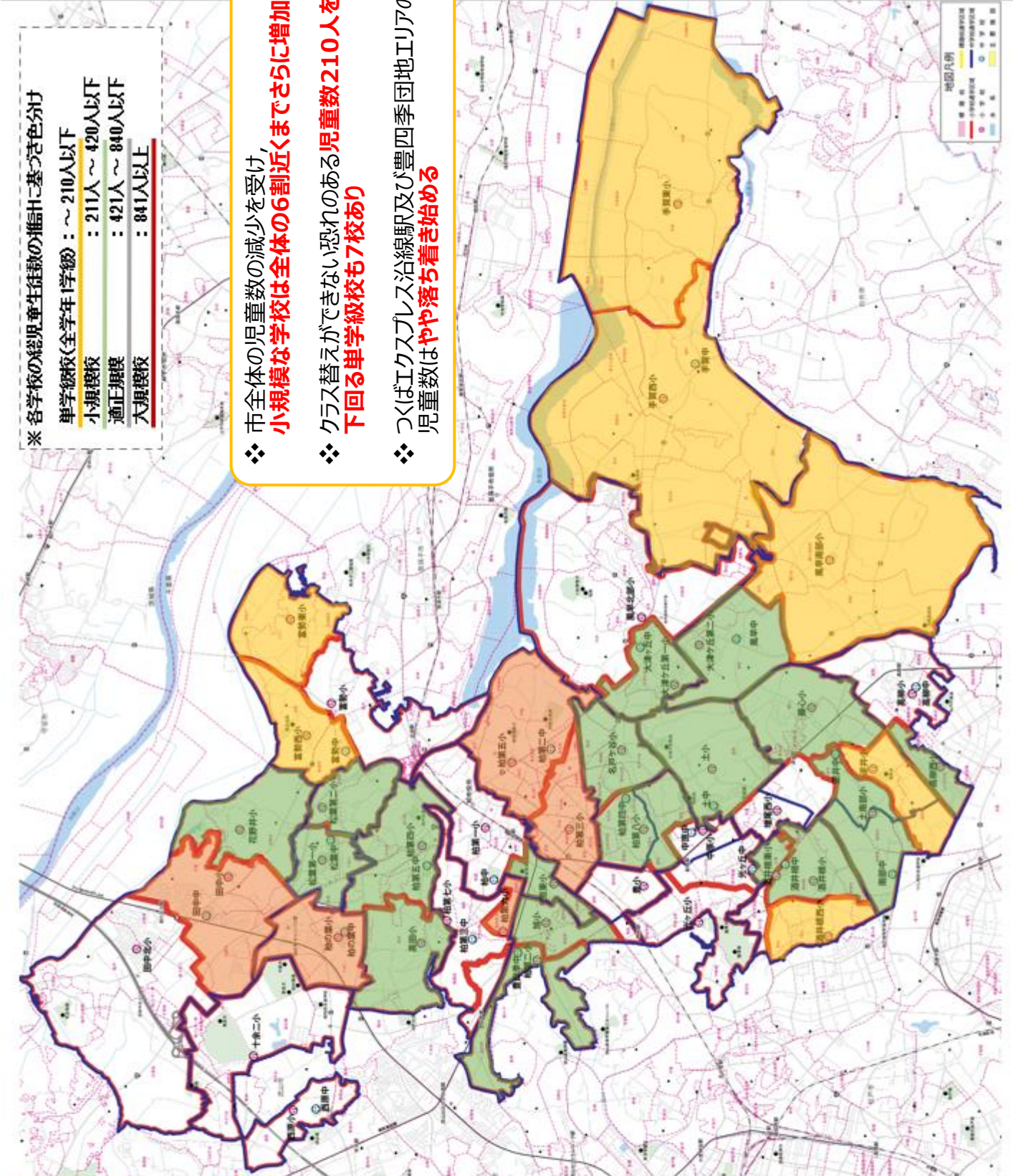
20年後（令和25年度）

学校規模予測 【小学校】 →20年後・R25

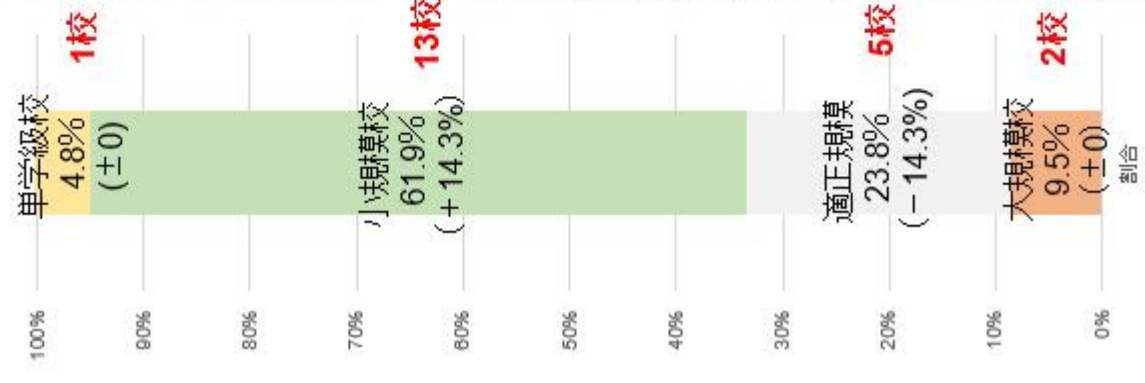


※各学校の総児童生徒数の推計に基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~210人以下
 小規模校 : 211人~420人以下
 適正規模 : 421人~840人以下
 大規模校 : 841人以上

- ❖ 市全体の児童数の減少を受け、**小規模な学校は全体の6割近くまでさらに増加**
- ❖ クラス替えができない恐れのある**児童数210人を下回る単学級校も7校あり**
- ❖ つくばエクスプレス沿線駅及び豊四季団地エリアの児童数は**やや落ち着き始める**

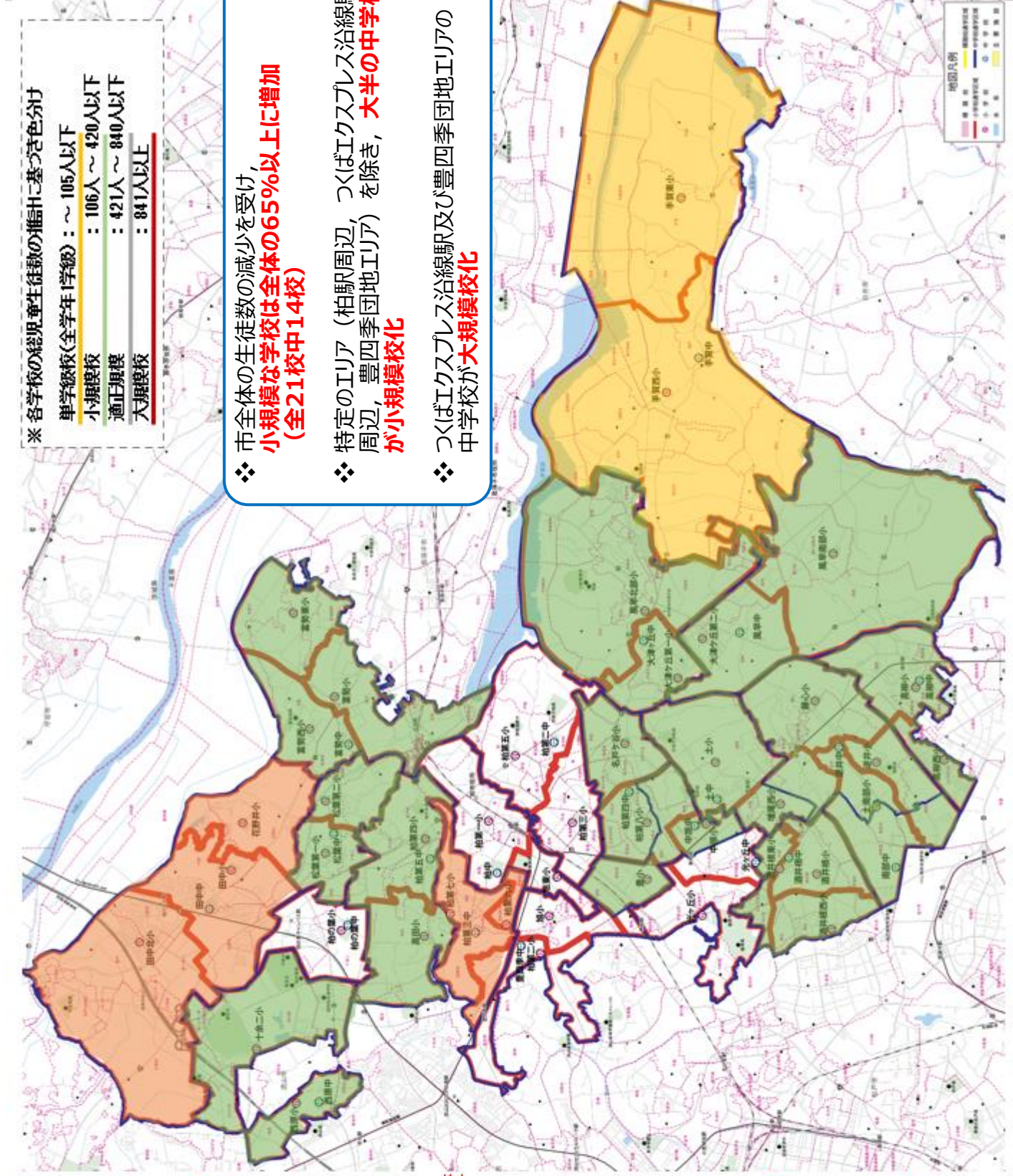


学校規模予測 【中学校】 →20年後・R25



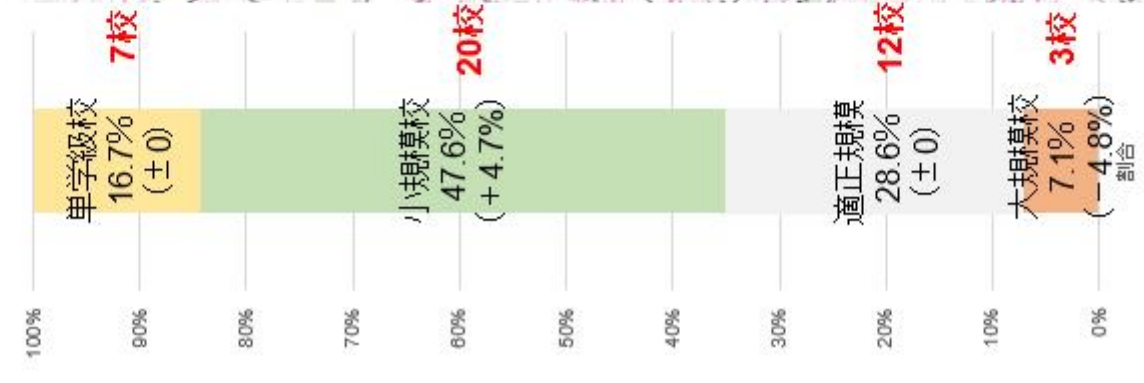
※各学校の総児童生徒数の推計に基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~105人以下
 小規模校 : 106人~420人以下
 適正規模 : 421人~840人以下
 大規模校 : 841人以上

- ❖ 市全体の生徒数の減少を受け、**小規模な学校は全体の65%以上に増加(全21校中14校)**
- ❖ 特定のエリア（柏駅周辺、つくばエクスプレス沿線駅周辺、豊四季団地エリア）を除き、**大半の中学校が小規模校化**
- ❖ つくばエクスプレス沿線駅及び豊四季団地エリアの中学校が**大規模校化**



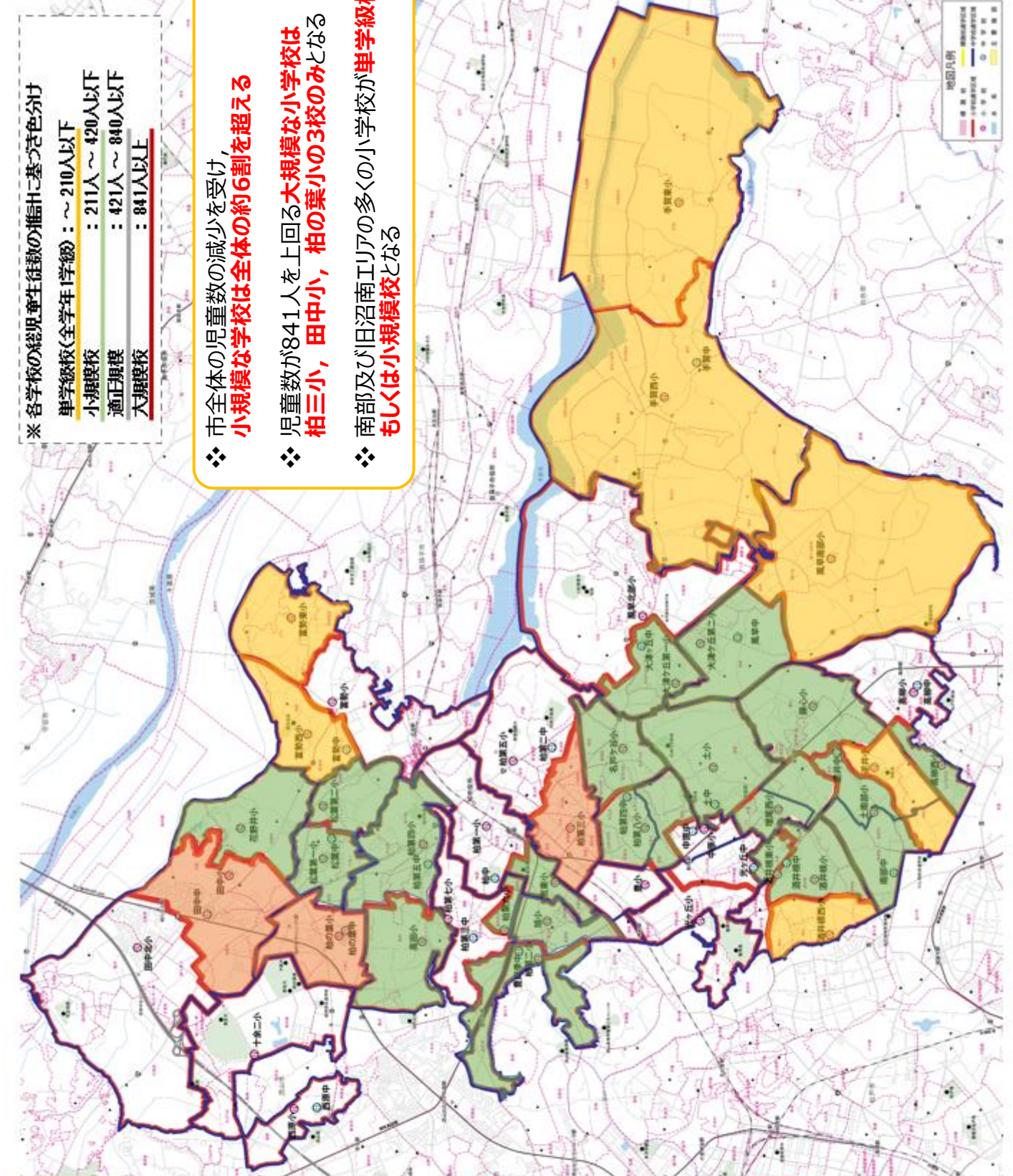
30年後（令和35年度）

学校規模予測 【小学校】 →30年後・R35

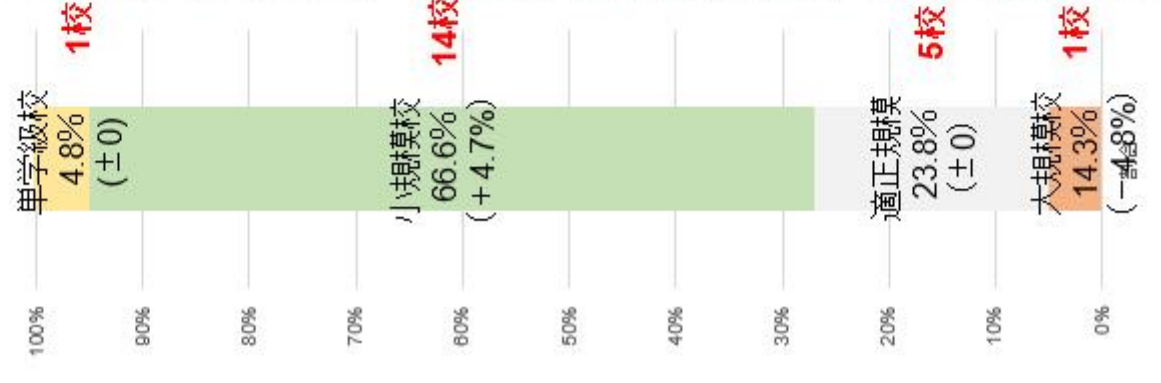


※ 各学校の総児童生徒数の幅に基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~210人以下
 小規模校 : 211人~420人以下
 適正規模 : 421人~840人以下
 大規模校 : 841人以上

- ❖ 市全体の児童数の減少を受け、**小規模な学校は全体の約6割を超える**
- ❖ 児童数が841人を上回る**大規模な小学校は柏三小、田中小、柏の葉小の3校のみ**となる
- ❖ 南部及び旧沼南エリアの多くの小学校が**単学級校**もしくは**小規模校**となる

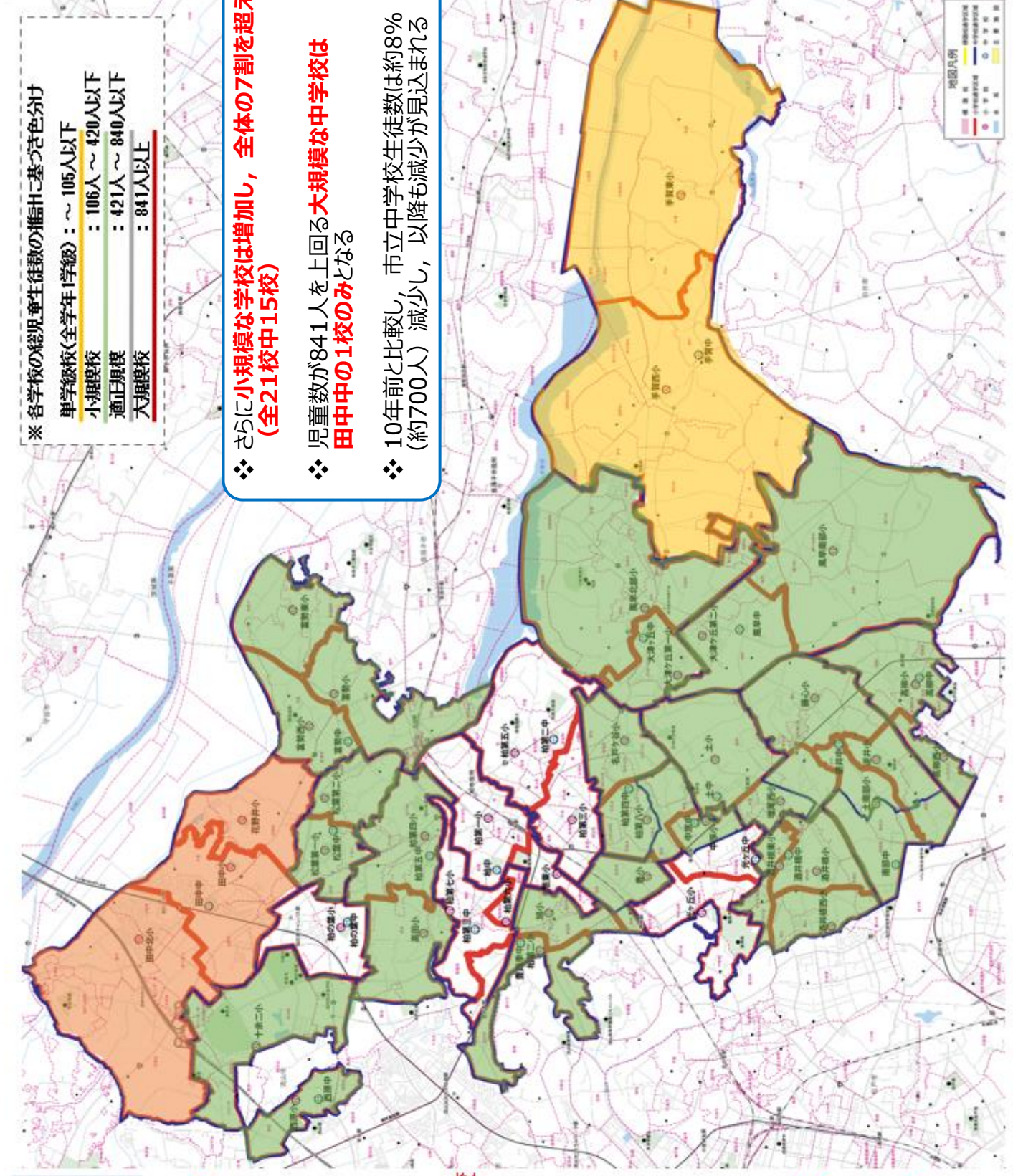


学校規模予測 【中学校】 →30年後・R35



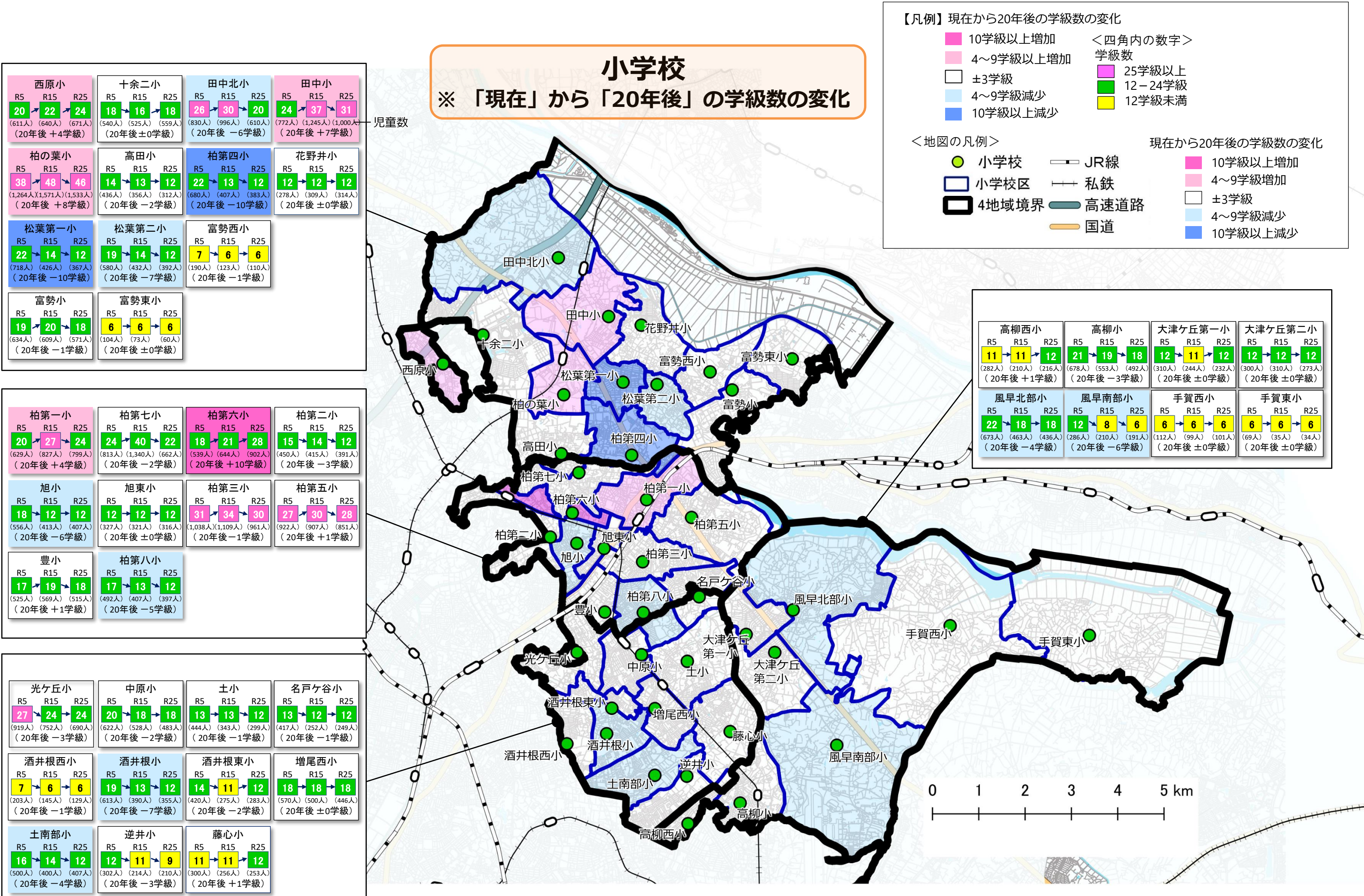
※ 各学校の総児童生徒数の幅に基づき色分け
 単学級校(全学年1学級) : ~105人以下
 小規模校 : 106人~420人以下
 適正規模 : 421人~840人以下
 大規模校 : 841人以上

- ❖ さらに**小規模な学校は増加し、全体の7割を超える(全21校中15校)**
- ❖ 児童数が841人を上回る**大規模な中学校は田中の1校のみ**となる
- ❖ 10年前と比較し、市立中学校生徒数は約8% (約700人) 減少し、以降も減少が見込まれる



(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

イ 学校規模の現状と今後の見込み（学校別の詳細）



(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

イ 学校規模の現状と今後の見込み（学校別の詳細）

